

事業報告概要書

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名
東京体育館	公益財団法人東京都スポーツ文化事業団グループ

2 収支の状況 (単位:円)	
項目	金額
収入 計	1,133,430,814
指定管理料	967,439,000
利用料金	111,077,038
その他	54,914,776
支出 計	1,125,538,023
収支差	7,892,791

3 管理運営の概要

管理状況	適切な管理の履行	施設・設備の保守点検	東京2020大会期間中は関係各所との綿密な調整を行い、臨機応変に保守点検を実施した。大会期間終了後は施設再開に向けてオーバーレイ撤去工事後の現場確認を行い、不具合箇所の確認・復旧を行った。水球競技の練習中に破損したプール階段壁面及び組織委員会の使用に起因する不具合が発見されたスタジオ床については、速やかに修繕を行い再開館に備えた。
		施設の提供について	○東京2020大会の会場として組織委員会へ全施設貸出を実施した。大会に向けて組織委員会と定例会議の他、業務ごとの打合せを随時行い、きめ細かな調整を行った。また、大会期間中は24時間体制で職員を配置し、運営に係る各種サポートを行うことで大会の成功に貢献した。 ○12月の通常開館後は、主催者と緊密に連携し、適切な感染症拡大防止対策を講じた上で、春の高校バレー、天皇杯・皇后杯卓球などの大規模大会を開催した。団体利用においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策等により、無観客開催等の規模縮小や利用中止となる行事が多かったが、キャンセル後の空き日程に内村航平選手の引退イベントを誘致・開催するなど、コロナ禍において最大限出来る限りの施設提供を行った。
		環境配慮への取組	令和4年度の東京都グリーン購入ガイドの改定に合わせて、再生可能エネルギー電力の使用割合を30%以上とする電力供給契約を締結した。
		情報漏えい事故への対応	○東京2020大会会場施設の管理者として、専任のIT担当者が中心となって、監視庁やNISCとセキュリティ対策に関する連携体制を構築しセキュリティ情報を共有することで、安全な大会の運営に貢献した。 ○猛威を振っているEmotet関連の不審なメールに対し、NISCや都からの情報提供に基づき、随時職員への注意喚起を行った。 ○職員のセキュリティマインド向上のため、全職員を対象として情報セキュリティに関するeラーニング研修を実施した。
事業効果	事業の取組み	安全確保性の確保	健康体力相談室は空気が滞りやすい構造となっており、感染症対策の観点から運営再開に懸念があったため、換気能力を高めるためのダクトの改修及び空調機器の交換を実施し、安全な運営体制を整えた。
		スポーツ振興事業の実施状況	当初計画していた12事業のうち、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため5事業を中止とし、4事業は定員を縮小して実施した。3事業については当初感染症対策のため開催を見送る予定であったが、対象を拡大して12月の再開イベントの枠組みの中で実施することができた。また、1事業については都のDX推進に対応するため、試行として参集型とオンライン型を併用したハイブリッド型でのセミナーを実施した。
		自主事業の実施状況	○再開イベントとして「東京体育館スポーツフェスタ2021」を関係団体や地元商店街等の協力を得て実施し、7,085人の参加者があった。 ○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、トレーニングルーム内で予定していた15分のショートプログラム等一部の事業を中止としたが、スタジオレッスン21事業、プールでの水泳教室等3事業を実施し、多くの参加者にスポーツの機会を提供した。
		サービス向上に向けた取組	○従来、利用者が施設に来場して申し込みを行っていたメインアリーナとサブアリーナの一般受付について、新型コロナウイルス感染症拡大防止及び利用者の利便性向上の観点から、オンラインで申し込みができるように手続きを改善した。 ○個人利用施設の入場料を各種キャッシュレス決済で支払可能とした他、スポーツ振興事業及び自主事業の参加料徴収においてオンライン決済を導入し、利用者の利便性を向上させた。 ○身障者用トイレまでの動線に点字ブロックを敷設し、アクセシビリティの改善を行った。
		利用者に対するサービス提供事業の実施状況	○駐車場・駐輪場のシステムを一新しキャッシュレス決済に対応可能とした。駐車場はゲートを廃止することで大型車両の入場可能とし、大規模大会開催時の設置等における利便性を向上させた。 ○新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、これまで水道がなかったマッサージルーム内に都の許可を得て手洗い場を設置し、利用者・職員がこまめに手洗いをできるようにした。
		利用者ニーズの把握	ホームページ上にご意見フォームを設置し、誰もが気軽に施設や運営に関するご意見や要望を寄せられるようにしている。寄せられたご意見等は組織内で共有し、より良い施設運営とするため日々検討を行っている。
		利用者の満足度	○個人利用者を対象に行った満足度調査では、東京体育館の設備・サービスについて回答者586名のうち97.9%が満足と回答している。（「十分満足」59.0%、「まあ満足」38.9%） ○利用団体を対象に行ったアンケートでは、東京体育館の設備・サービスについて18団体中17団体が「十分満足」または「まあ満足」と回答している。 ○事業参加者を対象に行った満足度調査では、回答者68名全ての方（100%）が満足と回答している。（「大変満足」68.2%、「まあ満足」31.8%）
		その他（新型コロナウイルスへの対応）	○個人利用、団体利用とも施設利用時には健康管理チェックシートの提出をさせていただき、利用者の健康状況を確認したうえで施設提供を行った。 ○個人利用施設においては、手指消毒液を多数設置した他、消毒用タオルを設置し利用者がトレーニング機器等の消毒に使用できるようにした。また、有酸素運動系のトレーニングマシンの間はパーティションで仕切りを設け、利用者に対してはマスクの着用や会話の抑制をお願いする等の感染対策を行った。 ○団体利用においては、都のガイドラインに則った注意事項を配付して利用時の感染対策の徹底を図った。また、換気を行うために各所の窓への網戸の設置や、適切なディスタンス確保のための座席やロッカーへの表示の設置を行った。

事業報告概要書

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名
駒沢オリンピック公園総合運動場	公益財団法人東京都スポーツ文化事業団グループ

2 収支の状況(単位:円)	
項目	金額
収入 計	832,305,732
指定管理料	597,902,000
利用料金	174,570,656
その他	59,833,076
支出 計	867,456,073
収支差	△ 35,150,341

3 管理運営の概要

管理状況	適切な管理の履行	<p>施設・設備の保守点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用者の安全安心・快適性を確保するため、施設・設備について、老朽化の状況等を踏まえ、都と緊密に連携し、年間94件、当初計画の1.4倍となる43,596千円の修繕・工事を実施(トレーニングルームシャワー室改修工事、豪雨対策のため陸上競技場各所止水版設置、補助競技場レストハウス改修工事、自動火災報知設備交換工事等) <p>施設の提供について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●優先受付やスポーツ団体への動き掛け等により、多様な大規模大会を誘致(第74回全日本選手権(個人戦)フェンシング大会、JリーグYBCルヴァンカップ プレーオフステージ 第1戦、令和3年度全日本レスリング選手権大会、令和3年度第100回全国高等学校サッカー選手権大会、第29回JOCジュニア・オリンピック・カップ・フェンシング大会、JFA第27回全日本フットサル選手権大会等) ●東京2020大会の聖火お披露目式、公式練習会場(サッカー)での利用のため、都、組織委員会および関係機関等と綿密な調整を行い、大会成功に寄与 																																			
	安全性の確保	<p>施設の設備の安全性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ●安全点検パトロールを定期的(月1回)に実施し、施設・設備の危険箇所の発見と対応 ●関係団体実務代表者による「連絡調整会議」を月1回実施し、一体的運営を確保 ●安全な施設提供を行うために、用具の保全や運用方法について内部研修を実施 <p>防災への配慮・緊急時対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ●消防署、消防団、地元自治会による深沢地区合同防災訓練に参加・協力し、周辺地域全体の防災対策に寄与。年2回の防災訓練(公園管理者と合同実施)において、消火訓練、避難誘導訓練等を実施 ●AEDを全施設に配備、全職員が「普通救急救命講習」受講 ●飲料自動販売機の災害時における無料提供(41基)の確保 ●世田谷区の高摩川流水域における水害時の指定緊急避難所設置に関する協定締結に向けて調整 																																			
事業効果	利用の状況	<p>個人利用状況 団体利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ●トレーニングルーム個人利用実績 59,291人(うち無料利用者3,858人) ※新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年4月25日～5月31日まで休館(年間開館日数228日) ●施設稼働率(5施設) 平均稼働率実績 70.4% ※新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年4月25日～5月11日まで全館休館 令和3年5月12日～5月31日まで屋内施設休館 <table border="1"> <caption><トレーニングルーム利用者数> (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> <th>R3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数</td> <td>197,617</td> <td>217,972</td> <td>222,701</td> <td>204,221</td> <td>53,175</td> <td>59,291</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption><稼働率> (%)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>体育館</th> <th>屋内競技場</th> <th>第一球技場</th> <th>第二球技場</th> <th>補助競技場</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30年度</td> <td>95.5</td> <td>93.7</td> <td>82.2</td> <td>97.3</td> <td>98.3</td> <td>93.4</td> </tr> <tr> <td>R3年度</td> <td>72.5</td> <td>62.9</td> <td>73.0</td> <td>74.1</td> <td>67.0</td> <td>70.4</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	利用者数	197,617	217,972	222,701	204,221	53,175	59,291		体育館	屋内競技場	第一球技場	第二球技場	補助競技場	平均	H30年度	95.5	93.7	82.2	97.3	98.3	93.4	R3年度	72.5	62.9	73.0	74.1	67.0	70.4
	年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度																														
利用者数	197,617	217,972	222,701	204,221	53,175	59,291																															
	体育館	屋内競技場	第一球技場	第二球技場	補助競技場	平均																															
H30年度	95.5	93.7	82.2	97.3	98.3	93.4																															
R3年度	72.5	62.9	73.0	74.1	67.0	70.4																															
事業の取組み	<p>スポーツ振興事業及び自主事業の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ●駒沢ジュニアサッカースクールなどスポーツ振興事業22事業、ジュニアベースボール大会など自主事業54事業、計76事業を計画。このうち、共同事業体を構成する一般社団法人東京都レクリエーション協会が「女性のためのレクリエーション体操」などのスポーツ振興事業、株式会社オーエンスが「ベースボールアカデミー」などの自主事業を実施。うち新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、18事業は中止 ●スポーツの日記念事業は、東京2020大会のレガシー競技(ソフトボール、バドミントン)や年齢・性別・障害の有無を問わず誰でも気軽に実施できるニュースポーツ(カーレット、バウンドテニスほか)のプログラムを展開し、都民のスポーツ参加の機会と場所を提供することにより、スポーツ実施率の向上に寄与。また、車いすバドミントンを取り入れ、障害者スポーツの理解を深める機会を提供 ●駒沢6時間耐久リレーマラソンは、コロナ禍により参集型を取り止め、リモート方式により実施。全国各地からジョギングやランニング愛好者が参加 <p>サービス向上に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●年末年始休館時(12/29～1/3元旦を除く)も、大会主催者の要望を踏まえて貸出し、全国高等学校サッカー選手権大会等に施設提供 ●施設貸出時間外の繰上げ及び延長希望にはできる限り対応し、スポーツ競技団体等の活動に寄与 ●オリンピック記念塔ライトアップを行い、医療従事者応援や、東京2020大会の気運醸成に寄与 <p>利用者ニーズの把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用満足度調査、利用者懇談会(書面開催)を実施し要望等を把握するほか、事業毎のアンケート、各施設に設置したご意見箱やHPのフォームにより利用者の声を収集 ●トレーニングルーム、弓道場等の個人利用、受付窓口等の団体利用の利用料、駐車場利用料をキャッシュレス決済出来るよう改修 ●補助競技場の競技用照明設備改修工事において、競技団体が確認を行う機会を設定 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ●補助競技場人工芝更新・競技用照明更新・防球ネット設置工事、屋内球技場アリーナ面張替工事、東電気室電気設備改修工事、トレーニングルーム空調設備改修工事、屋外施設系統ほか給水設備改修工事について、東京都や施工業者、公園管理者、競技団体等と密接に連携しながら工事や利用再開に向けた調整を実施。これらに加え体育館大規模改修等、次年度以降に行う工事調整などに全面的に協力 ●近年改築した屋内球技場や第一球技場、硬式野球場については、安定稼働の途上にあるため、東京都や施工業者と調整を行い、きめ細やかな配慮をしながら施設運営 ●「公園連絡調整」の担当を設置し、毎朝の打ち合わせを行い、公園管理者との情報の共有を徹底 ●警備業務では、施設毎に個別で警備を行うのではなく公園全体を一体として警備することで、園内全体の治安維持による事件・事故を未然に防止し、業務の効率化と費用を削減 ●廃棄物の処理においても公園と一体として取り扱うことにより費用を削減 ●新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図り利用者の不安を解消するため、利用者の体調管理確認の徹底、非接触型体温計や消毒液の各所への設置、換気の徹底、各種注意喚起の掲示、密を避けるためのレイアウト変更、トレーニングルームの混雑度情報の発信等を実施 ●大規模大会の実施に当たっては、事前打合せにおいて主催者に対し新型コロナウイルス感染防止対策の徹底を依頼するとともに、主催者側ガイドラインの提出や大会期間中の体調管理状況の報告を要請 ●スポーツの日記念事業、6時間耐久レースの実施について、新型コロナウイルスの影響により中央広場等の使用を中止 																																				

事業報告概要書

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名
東京武道館	公益財団法人東京都スポーツ文化事業団グループ
2 収支の状況（単位：円）	
項目	金額
収入 計	366,351,046
指定管理料	307,800,000
利用料金	53,340,347
その他	5,210,699
支出 計	367,102,360
収支差	△ 751,314

3 管理運営の概要																				
管理状況	適切な管理の履行	<p>「武道振興の拠点」として、質の高い大会開催と成功に貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催者と綿密な事前打合せを実施し、安全で円滑な大会運営に向けてサポート ・入場制限や動線分け、各施設ごとの消毒等、新型コロナウイルス対策を徹底し、安全安心な施設の提供を実施 ・東京2020大会の空手公式練習会場として、大会関係機関との着実な調整、徹底した安全管理を実施 																		
	施設・設備の保守点検	<p>安全・安心、快適な利用に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内スタッフによる連絡会を定期的に行い、情報共有と修繕等の検討を実施 ・経年劣化があった床補修などを着実に実施し、安全な設備管理を維持 																		
	法令等の遵守	<p>省エネルギー・環境へ配慮した取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場に電気自動車充電設備（急速1基・普通3基）を導入 ・グリーン電気入札等参加条件取扱要領記載水準2を満たす電気事業者と契約を締結 																		
	安全性の確保	<p>危機管理及び災害対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元警察署と連携し、テロ対応訓練を実施 ・一時滞在施設の開設準備訓練として、役割分担・開設時書類・備蓄品等の確認を実施 																		
利用状況	個人利用者数	<p>利用者数維持の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トレーニングルームHPで混雑状況等の情報を発信し、安全な利用を図った。 ・利用時間や人数制限等がかかる中、情報発信を継続し、稼働率は徐々に回復 ・武道施設個人利用において事前予約制を実施し、安心・安全な利用を促進 <table border="1"> <tr> <td colspan="5">トレーニングルーム 個人利用者数の推移(無料利用者を含む)</td> <td>(人)</td> </tr> <tr> <td>年度</td> <td>平成29年度</td> <td>平成30年度</td> <td>令和元年度</td> <td>令和2年度</td> <td>令和3年度</td> </tr> <tr> <td>年間利用者数</td> <td>69,330</td> <td>77,749</td> <td>76,150</td> <td>27,388</td> <td>37,702</td> </tr> </table>	トレーニングルーム 個人利用者数の推移(無料利用者を含む)					(人)	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	年間利用者数	69,330	77,749	76,150	27,388	37,702
	トレーニングルーム 個人利用者数の推移(無料利用者を含む)					(人)														
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度															
年間利用者数	69,330	77,749	76,150	27,388	37,702															
団体利用稼働率	<p>稼働率維持の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス対応で武道団体等の利用が減少する中、マーチングバンド等の利用団体に空き情報を発信し、利用を促進し、稼働率は徐々に回復 ・平日利用が想定される学校運動会やチーム・サークル等への継続的なPRを実施 <table border="1"> <tr> <td colspan="5">大武道場 稼働率の推移</td> <td>(%)</td> </tr> <tr> <td>年度</td> <td>平成29年度</td> <td>平成30年度</td> <td>令和元年度</td> <td>令和2年度</td> <td>令和3年度</td> </tr> <tr> <td>稼働率</td> <td>86.8</td> <td>89.2</td> <td>85.1</td> <td>48.7</td> <td>67.0</td> </tr> </table>	大武道場 稼働率の推移					(%)	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	稼働率	86.8	89.2	85.1	48.7	67.0	
大武道場 稼働率の推移					(%)															
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度															
稼働率	86.8	89.2	85.1	48.7	67.0															
事業効果	スポーツ振興事業及び自主事業の実施状況	<p>計画に基づき着実に実施し、武道・スポーツの普及振興に貢献</p> <p>①スポーツ振興事業・・・30事業（33事業うち3事業は新型コロナウイルス感染防止の為に中止）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年向け武道稽古、働き盛り世代向けの武道稽古、女性のための護身術、シニア世代の武道体験、各種武道の指導者育成など、定員を縮小するなど安全に配慮しながら、武道に親しむことができる機会を提供 <p>②自主事業・・・55事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「U-18将棋スタジアム」「ジュニア囲碁パーク」を募集人数を縮小し実施。武道だけでなく伝統文化に親しむ機会を提供 ・スタジオプログラム(42メニュー、1,214回実施)を展開し、スポーツ実施率の向上に寄与 <p>③スポーツの日記念事業・・・延べ2,500人近くの参加者実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の武道体験など多彩な体験機会を提供し、広く武道・スポーツに親しむ機会を提供 ・「東京都におけるリバウンド防止措置」期間となったが、多くの参加者が来場 ・柔道メダリストによる指導、パラリンピック種目の体験・写真パネル展示等、東京2020大会のレガシーを盛り込んだ企画を実施 																		
	サービス向上に向けた取組	<p>キャッシュレス化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュレス機能を搭載した新入退場システムの導入 ・駐車場にキャッシュレス機器を追加設置 																		
	利用者ニーズの把握	<p>多様な方法でニーズを把握し、業務改善に取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者満足度調査結果 9割超が満足と高評価 ・館内各所に御意見箱を常時設置し、意見収集によりニーズを把握し、改善に取組 ・利用者からの意見・要望とそれらに対する回答を館内に掲示 																		

事業報告概要書

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名
東京辰巳国際水泳場	オーエンス・セントラル・都水協・事業団グループ

2 収支の状況(単位:円)	
項目	金額
収入 計	758,794,315
指定管理料	584,888,000
利用料金	56,086,661
その他	117,819,654
支出 計	703,703,078
収支差	55,091,237

3 管理運営の概要

管理状況	適切な管理の履行	施設・設備の保守点検	<p>○設備の老朽化により、維持管理及び保守点検業務の重要性が増してきていることから、提案書で示した配置人員8名を上回る9名で監視体制を整えた。</p> <p>○令和3年度は、年間で63件、総額約30,000千円の工事を実施した。</p>
		プール施設の管理	<p>○プールの水質については、中央監視システムによる温室・水温・遊離残留塩素濃度のチェックとともに、ライフガードの実測によるダブルチェックも行い、適切な水質保持に努めた。</p> <p>○メインプールは年2回、サブプール及びダイビングプールは年1回の換水清掃時に、排水溝の安全点検を実施するとともに、可動床装置の保守点検を実施している。</p>
		人員配置	<p>○プール監視業務を行うライフガードについては、「ライフガード施設運営手順書」、「機械操作手順書」及び「大会設営(準備・撤収)手順書」を作成し、毎月、確認研修を行っている。同時に、資格保持者による「心肺蘇生法研修」及び「水上安全法研修」も実施し、アルバイトを含めたライフガードすべての能力向上に努めている。</p>
		人材育成の取組	<p>○利用者サービスの一層の向上を図るため、水泳場全職員を対象に接遇研修を実施した。ケーススタディでは、利用者からのご要望・苦情等に真摯に取り組むため、日頃の事例をテーマに具体的対応策を学んだ。</p> <p>○令和4年3月上旬に水泳場職員のパソコンが第三者のサイバー攻撃を受けたことにより、同月下旬に再発防止の取組として、メールアドレスのパスワード強化及び不審メールや添付ファイルを開かない等、取扱いに関する職員教育を行った。</p>
事業効果	事業の取組	防災への配慮・緊急時対策	<p>○消防計画に基づき、5月と12月には自衛消防訓練を、7月にはオリンピック・パラリンピック大会組織委員会との合同消防訓練を実施し、東京2020大会で設置した多言語放送システムの活用についても実践した。</p> <p>○救命救急用として館内に設置する5台のAED設置場所について、観客席での掲示の他、館内の利用案内掲示板すべてに掲出をし、来場者への周知を図った。</p>
		スポーツ振興事業の実施状況	<p>○再開館後の10月から計画していた14事業のうち、「親子ふれあいスポーツ観戦事業」「辰巳杯(飛込・A.S)」等5事業は、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響で中止したが、その他9事業については感染症対策を徹底し、無事に実施することができた。</p>
事業効果	事業の取組	自主事業の実施状況	<p>○東京2020大会により4月から半年間、事業休止となったため退会者も出たが、10月の再開時には150名を超える新規入会者を得ることができ、休止前の会員数に近い状況でスタートすることができた。</p>
		サービス向上にむけた取組	<p>○一般公開利用者への無料サービスとして、毎月「ワンポイントアドバイス」、「飛込撮影サービス」など5プログラムを実施している。当日申込、定員制及び抽選方式で行っているが、どのプログラムも好評で申込者も多く、水泳場の利用促進につながっている。</p> <p>○水泳場と新木場駅、辰巳駅等の最寄駅をつなぐ無料巡回バス「辰巳号」を、大会開催日を除くほぼ毎日運行し、利用者の利便性向上と水泳場の利用促進を図っている。</p>
		利用者ニーズの把握	<p>○個人利用者及び団体利用者に対して実施した利用者調査で、95%以上の方々から、「十分満足をしている」、「まあ満足をしている」との高評価を受けた。特にプールの水質については、継続して高い評価を受けている。</p> <p>○館内「ご意見箱」にいただいたご意見・ご要望については、速やかに現場確認及び状況確認をし改善策を検討した。回答については月毎に取りまとめ、利用者の皆様にご覧いただき易いようエントランス等に掲示している。</p>
		その他(大規模工事への対応)	<p>○東京2020大会期間中に設備の不具合が生じないよう、取扱いの注意事項について東京都及び大会組織委員会と綿密に現場調整を行った。特に経年により急な調達が必要な設備部品については、事前調達を含め万全の対策を講じた。</p> <p>○10月1日の再開館を踏まえ、大会終了後のオーバーレイ工事及び水泳場再開準備が円滑に進むよう、工事スケジュールについては大会組織委員会と十分な調整を図った。相互協力の下、オーバーレイ工事及び水泳場再開はともに予定通り進めることができた。</p>
事業効果	事業の取組	新型コロナウィルスへの対応	<p>○マスクなしで利用される更衣室やジャグジーなどの諸室においては、スタッフが積極的に巡回し、会話の自粛についての声掛けを行い協力を求めた。</p> <p>○コロナ感染者数の増加を受け、2月以降はプールサイドでのマスク着用やジャグジーの利用人数を制限する等、感染症対策について一層の強化を図った。</p>

事業報告概要書

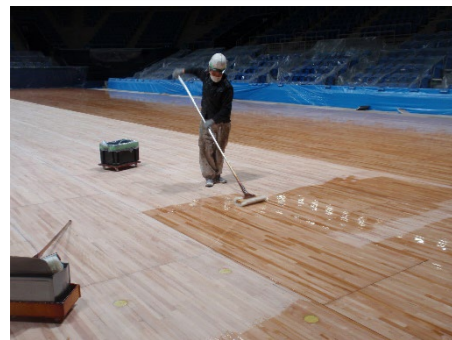
1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名
有明テニスの森公園テニス施設	有明テニス・マネージメントチーム

2 収支の状況(単位:円)	
項目	金額
収入 計	447,477,215
指定管理料	447,350,665
利用料金	126,550
その他	0
支出 計	407,281,827
収支差	40,195,388

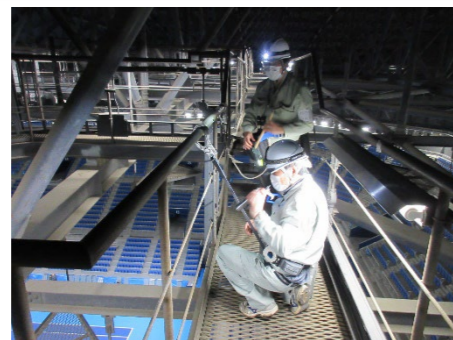
3 管理運営の概要

管理状況	① 適切な管理の履行	施設・設備の保守点検	<ul style="list-style-type: none"> 東京2020大会期間中(大会前後含む71日間)は、円滑な大会運営に万全を期すため、他部署からの応援スタッフ99人も加えた全社的な対応により、各建物での監視業務を24時間体制で実施した。酷暑や雨天による試合スケジュール変更など予定外の事態が発生したが、不備なく柔軟な対応を行い、大会の成功に貢献することができた。 東京2020大会後の施設原状復旧について、組織委員会担当者の立ち合いのもと、施設改変箇所及び施設破損箇所の復旧方法の確認や修繕業者を紹介するなどの対応を行い、11月末までに復旧を終えることができた。 新規施設の不具合に関して、発生の都度、東京都に報告・相談を行い、早期是正に向けて調整を図った。(インドアコート雨漏り、ショーコート壁面やエレベーター建屋亀裂等) 有明コロシアムの可動式木床(体育館フロア)について、老朽化に伴う劣化が進んでいたため、今後のパラスポーツなどの利用に向けて大規模な修繕を行った。 有明コロシアムの利用再開に向けて、屋根及び天井部の吊り金具、管理用通路、照明、音響設備の安全点検を実施した。
		施設の清潔さ	<ul style="list-style-type: none"> 施設の清掃について東京都の仕様を上回る回数を実施した。(日常清掃:週3回⇒毎日) 樹木の健全な育成を促すため、樹形全体のバランスを考慮しながら、枝おろし、枝透かしなど基本剪定を園内広域に渡って実施した。 園内の歩行者通路(シンボルロード)及び公園外周歩道の清掃を毎週実施するとともに必要に応じて除草や雪かきを実施し、公園内外の住民動線の安全確保と美観維持に努めた。
		施設の提供について	<ul style="list-style-type: none"> 管理運営基準に従って優先受付を実施。東京2020大会の開催に伴い、組織委員会からの申請を受け、大会本番、仮設物の設置、撤去及び原状復旧に関するオーバーレイ工事のため大会組織委員会に4月から11月末まで施設提供を行った。 東京2020大会の運営に関し、役割分担、防火防災管理、諸室及び備品利用、清掃等について協議し、東京都、組織委員会、工事関係者と緊密な連携体制を構築し、大会の円滑実施に寄与した。 3月22日から有明コロシアムを個人利用に限定し、利用再開を行った。
	② 法令等の遵守等	個人情報保護の取組	<ul style="list-style-type: none"> 全スタッフを対象に疑似ウイルスによる標的型メールに対応した「情報セキュリティ緊急時対応訓練」やセキュリティ担当部署による社内全端末のアクセス等の「情報セキュリティ自主検査」を実施した。 全スタッフにeラーニング「情報セキュリティ研修」を実施し、情報漏洩事故防止に対する社員の意識向上を図った。 「メール送信セキュリティシステム」を活用し、誤送信等による情報漏洩の予防を図った。
		施設・設備の安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 施設維持や緑地管理は予防管理の考え方を柱にした「パークメンテナンス方式」を活用し、施設の不具合が顕在化する前に施設保全や安全性確保のための措置を行った。(枯損木の撤去及び新植、ショーコート雨漏り対策、自動ドア防護柵設置、樹木基本剪定等) アンケートによる利用者からの意見を踏まえ、インドアコート2階中央通路転落防止ネットを設置し、施設の安全性向上を図った。
事業効果	③ 安全性の確保	防災への配慮・緊急時対策	<ul style="list-style-type: none"> 東京2020大会期間中において、組織委員会と共同で自衛消防組織を立ち上げ、自衛消防訓練や消防検査を受検するなど連携体制を構築し、防火防災業務にあたった。 消防計画に基づく「自衛消防訓練」を実施し、来館者の避難誘導訓練、火災報知器や消火栓等の消防設備の操作習熟訓練、負傷者の応急救護訓練等の実地訓練を行った。 インドアコートが一時滞り施設となっているため本社応援スタッフを動員し、「帰宅困難者の受け入れ及び災害備蓄品の提供訓練」を行った。 安否確認システムにより、「社員の安否、被災状況について携帯電話から自動収集する訓練」を実施した。発災時のスタッフ参集を迅速に図るため情報連絡体制を確認した。
		利用状況	<ul style="list-style-type: none"> 7月から9月にかけて東京2020大会テニス競技及び車いすテニス競技が有明コロシアム、ショーコート他、全施設を利用し開催された。(無観客開催) 個人利用は、3月22日に再開した有明コロシアムのみ19人の利用となった。インドアコート、ショーコートにおいて、令和4年4月1日からの再開が決まったため、利用受付の準備を進めた。
	④ 状況利用	スポーツ振興事業	<ul style="list-style-type: none"> 東京2020大会及び改修工事のため、今年度の実施は無かったが、今後のイベント開催時にさまざまな種目を体験できるようなテニス系ニュースーツ用具(パドルテニス、バウンドテニス他)を新たに導入した。また、パラスポーツ振興のため、テニス競技用車いすの導入及び活用方法に関する検討を進めた。
		サービス向上に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> 有明コロシアムのロビーに試合状況の中継や発災時の情報発信を行うため、可動式のデジタルサイネージを設置した。12月に開催した都民見学会の際に東京2020大会の映像を放映するなど活用を図った。 クラブハウス及びインドアコートにテニスコート一般利用者向けの無料Wi-Fiを設置した。また、東京2020大会に向けて東京都が整備を進めた有明コロシアム、ショーコート観客席の無料Wi-Fi設置工事に関して、工程や設置方法の検討など積極的な協力を行った。 施設のアクセシビリティを広く紹介するためホームページにバリアフリー施設の紹介、アクセシブルルートの案内、座席検索やパノラマビューのコンテンツを東京2020大会開催前に公開した。
⑤ 事業の取組	その他(大規模工事への対応・新型コロナウイルスへの対応)	<ul style="list-style-type: none"> 東京2020大会本番及び組織委員会の仮設オーバーレイ工事の対応として、東京都及び組織委員会と調整のうえ地域住民に情報提供を行うとともに当社主催による関係者会議を毎週開催し、情報共有及び課題調整を積極的に進め、円滑な工事実施のため協力を図った。 12月から開始された財務局改修工事の円滑な実施のため、関係者連絡会議を毎週開催した。 コロナ感染防止対策として、施設の消毒作業、アクリル板の設置、非接触型検温器による検温やソーシャルディスタンス表示、全ての入口やテニスコートに消毒薬の設置などを行った。 これらの対策により、スタッフなど関係者に新型コロナウイルス感染者を1人も出すことなく東京2020大会の開催に寄与することが出来た。 	

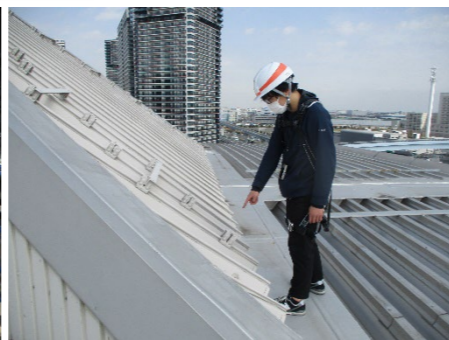
施設・設備の保守点検



木床の修繕



コロシアム天井点検



コロシアム屋根点検



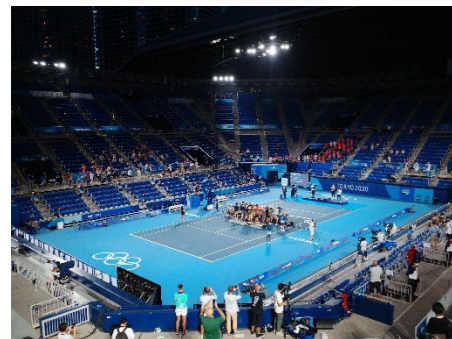
樹木基本剪定



改善

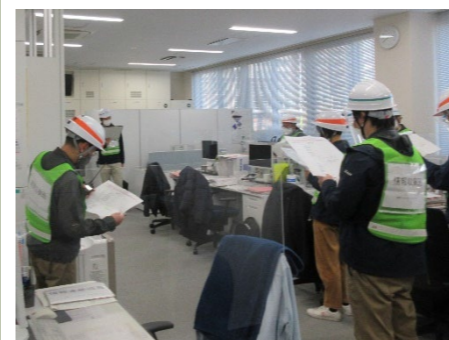
利用者意見に対する改善策（インドアコート通路転落防止ネット設置）

施設の提供について



東京2020大会 テニス競技・車いすテニス競技

防災への配慮・緊急時対策



自衛消防訓練



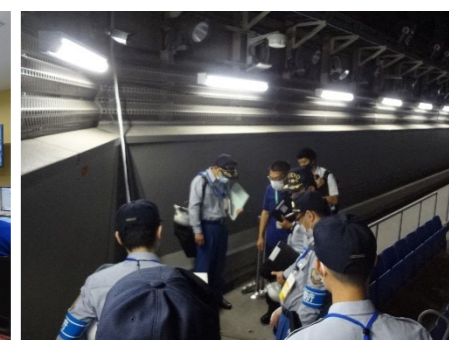
帰宅困難者の受け入れ及び災害備蓄品の提供訓練



消防設備操作習熟訓練



東京2020大会防火防災業務（組織委員会との共同訓練、検査対応）



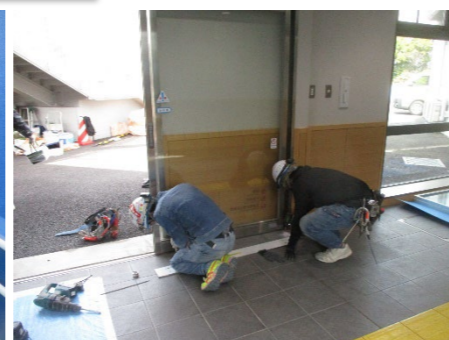
施設・設備の安全性の確保



枯損木の撤去・新植



ショーコート雨漏り対策



自動ドア防護柵設置

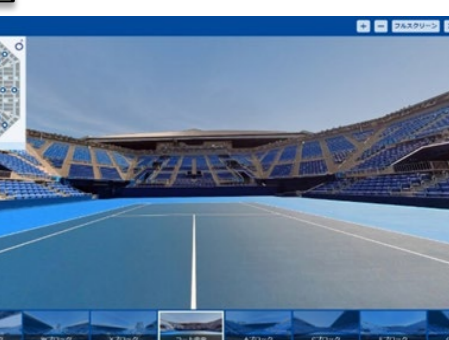
サービス向上に向けた取組



可動式デジタルサイネージの導入



ホームページの改善（座席検索、座席からのパノラマビューを公開）



事業報告概要書

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名
若洲海浜公園ヨット訓練所	若洲シーサイドパークグループ

2 収支の状況 (単位: 円)	
項目	金額
収入 計	64,800,685
指定管理料	53,052,000
利用料金	8,596,000
その他	3,152,685
支出 計	53,052,000
収支差	11,748,685

3 管理運営の概要

管理状況	適切な管理の履行	<p>利用者の安全・安心を確保及び施設等の日常巡回点検を着実に実施し、不具合箇所を発見した場合は迅速に対応を行った。(不具合対応件数31件中15件を直営作業で実施)</p> <p>施設補修では、お客様に安心かつ清潔な環境を提供するため、各トイレの尿石除去を引き続き徹底するとともに、老朽化した排水口のトラップも交換補修して良好な機能維持に努めた結果、利用者に施設を気持ちよく使用していただいた。また、ヨット・レスキュー艇昇降用スロープ利用の安全を確保するため、清掃作業等を毎週定期的に継続実施し、さらにスロープに付着堆積している牡蠣殻の除去を行った。施設費の維持については、剪定・枯枝撤去・実生木の伐採を行うなど適宜実施した。</p> <p>近年、施設設備の老朽化が進み故障等の不具合も多く、適宜補修を行ってきた。予算の効率的な執行はもとより、今年度は日々のヨットの小修繕をはじめ、全桟橋の点検を実施して補修の必要な箇所の特定に努めた。</p> <p>樹木管理やスロープ清掃もスタッフの直営で作業を実施するとともにクリーンアップ活動としてヤードや艇庫内の不用品の片付けを行う等施設の適切な管理に努めた。</p>
	安全性の確保	<p>本年度も引き続き様々な安全対策を継続的に実施するとともに、特に新型コロナ感染拡大防止に取り組んだ。</p> <p>ヨット教室や施設利用者への安全・安心確保にむけた取り組み</p> <p>①経験豊富なインストラクターの配置 (日本セーリング連盟認定・バッジテスト中級以上)</p> <p>②教室開催前のインストラクター全員でのミーティングによる情報共有の徹底 (当日の参加者の技量に合わせたスケジュール・当日の気象及び海象情報等の確認等)</p> <p>③教室開催中の無線による状況確認及び情報交換</p> <p>④リアルタイムでの気象・海象チェック</p> <p>⑤監視カメラによるヨットの動向及び周辺海域の監視</p> <p>⑥受講者数に応じたレスキューボートの配置</p> <p>⑦教室で使用する艇の事前・事後点検の徹底</p> <p>⑧定期的なヨット・レスキュー艇昇降用スロープの藻の除去清掃作業</p> <p>⑨海上保安部からの指導に基づく練習区域の厳守、安全対策の徹底を確保するためのパトロール艇の出動</p> <p>一年を通じて新型コロナ感染拡大防止の観点から利用者に対してはマスク着用、手洗い・うがいの励行、アルコール消毒の励行、感染防止対策チェックリストへの記入、ヨット教室開催前後のアルコール消毒を実施するとともに、感染状況に応じてヨット教室や支援活動事業、レース大会等を中止して利用者の安全確保を第一にした管理を行った。また、スタッフに対してもマスク着用、手洗い・うがい、手指のアルコール消毒の励行はもとより感染防止対策チェックリストへの記入、事務所内の飛沫防止アクリル板の設置等十分な対策を講じてきたことから一人の感染者を出すことなく事業運営を行った。</p>
	防災への配慮・緊急時対策	<p>従来から引続き地震等の大規模災害への適切な対応にむけて、現場独自の防災訓練の他、東京都の一時滞在施設としての訓練や本社と連携した大規模地震が発生した際の初動対応訓練など、積極的な防災訓練の実施を通じて災害時における危機管理能力の向上と防災への意識の拡充を図った。</p> <p>R4年2月8日 ①若洲地区【ゴルフ・キャンプ・若洲協議会との連携】の総合防災訓練 (避難誘導訓練の実践的な訓練の実施)</p> <p>②一時滞在施設としての受入訓練 (帰宅困難者の対応訓練や緊急電話開設等の使用訓練)</p> <p>R4年2月24日 ③安否確認システムを活用した本社との大規模地震初動対応訓練の実施</p>
事業効果	スポーツ振興事業の実施状況	<p>事業計画に基づき、セーリング普及にむけたマリンスフェスティバル、障がい者体験乗船会、ジュニア育成にむけたマンスリーレガッタ等の事業を実施した。これまでも積極的に取り組んできたが、障がい者体験乗船会をより一層充実させるため、日本セーリング連盟・東京都障害者セーリング連盟・日本視覚障害者セーリング協会の3団体と連携・強化を図り、新型コロナ感染拡大の影響もあったが予定していた3回を開催することができた。</p> <p>今後は、障がい者とセーリング初心者の健常者が競技会を通じて交流する機会作りを努める。</p> <p>【障がい者体験乗船会 参加者数】(参考)</p> <p>R2年度・7月、10月、11月、12月開催 216名 (参加者 70名 スタッフ146名)</p> <p>R3年度・7月、11月、12月開催82名 (参加者28名、スタッフ54名)</p>
	利用者の満足度	<p>今年度は新型コロナ感染拡大の影響もありアンケート数を確保することが困難であったが、その中でも利用者向けアンケートでの結果は、施設の総合満足度(100%)、受付窓口の対応(95%)、ヨット教室の内容(99%)等の主要項目で、「大変よい」若しくは「よい」とお答えいただいたお客様の割合がいずれも9割を超え、評価をいただいた。さらには場所がわかりにくいというアンケートへの意見にはわかりやすいよう案内板を修正するなど取り組んだ。今後は引き続き高評価が得られるよう教室運営を行っていくとともに施設全体のアンケート数の確保に努めていく。</p> <p>また、施設全体で更なる満足度向上を目的に「ウェルカムガーデンの設置」「冬場のコーヒー無料サービス」「夏場の熱中症対策としての麦茶・塩飴の無料配布」「シャンプー(アメニティ)の提供」「アンケート結果の公表」等継続したことに加えウォーターサーバーを導入し利用者サービスとともに環境への配慮にも取り組み、お客様が快適に過ごせる環境づくりを行った。</p>
	利用促進への取組	<p>新型コロナ感染拡大の影響下において今年度も事業計画に基づき、「ジュニアコースセーリング部支援事業」「Tokyo Junior Youth」、「高等学校ヨット部活動支援事業」等の普及啓発及び育成事業を行った結果、今年度もこの育成事業から、開催数が減少したなか生徒が選手権等へも出場した。下記の実績があったがコロナの影響により①、②ともに中止となった。今後も計画にある事業の着実な実施を目指し若洲ヨット訓練所の知名度を上げて利用者増に繋げていけるよう利用促進に取り組んでいく。</p> <p>【実績】</p> <p>①「個人」</p> <p>レーサークラス女子ランキング1位で海外レース日本代表に選出(中止)</p> <p>②「団体」</p> <p>国際交流日本ヨットクラブ競技会団体優勝でオーストラリア研修参加決定(中止)</p> <p>施設の利用促進として、①障害者体験乗船会の拡大(新型コロナの影響で全部は開催できなかった)、②マリンスフェスティバルの開催、③ヨット教室プレ体験講座、④ラジコンレースの積極的な受け入れに取り組んだ</p> <p>キャッシュレス決済については、利用者の利便性向上を図るため、電子マネーの導入等の決済銘柄の拡大を行った。また、次年度早々に新規にパンフレットを作成して各方面へ広報できるよう、内容を検討する等の準備に取り組んだ。</p>
	その他	<p>東京2020大会会場となる湘南港からのヨット受入れが1年延長となったが利用にあたっての神奈川県との打合せや移設に関する協定の締結など密に調整を図ったことで協定期間終了まで円滑に対応できた。</p> <p>対象艇数：100艇</p>

令和3年度 若洲海浜公園ヨット訓練所 管理運営状況補足写真



事業報告概要書

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名
武蔵野の森総合スポーツプラザ	東京スタジアムグループ

2 収支の状況 (単位:円)	
項目	金額
収入 計	793,344,229
指定管理料	576,766,000
利用料金	133,749,831
その他	82,828,398
支出 計	697,203,370
収支差	96,140,859

3 管理運営の概要

管理状況	適切な管理の履行	施設の提供について	<p>○東京2020大会では、オリンピック（バトミントン・近代五種のフェンシング・水球〔練習〕）・パラリンピック（車いすバスケット）ともに競技／練習会場となった。施設管理者として、運営計画策定や会場設営を担うなど組織委員会に協力。工事の進捗やセキュリティレベル等の変更に伴う関係者導線変更などの細かい調整から大会中のトラブルまで、柔軟かつ適切に対応し、大会の成功に寄与した。また、味の素スタジアムで開催された近代五種の水泳に、パフォーマンス向上のため温度を調整したプール水を提供するなど、他会場での運営もサポートし、多摩の一大スポーツ拠点としての役割を果たした。</p> <p>○一般利用は、緊急事態宣言及び東京2020大会開催に伴う閉館による稼働日数の減、また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための人数制限など、限られた中であつたが、感染症対策を徹底することで利用者の安全を確保し、安定的に運営。イベントは、スポーツの全国大会やコンサート等の大型イベントを含め、メインアリーナ23回、サブアリーナ115回開催した。</p>
	安全性の確保	施設・設備の安全性の確保	<p>○東京2020大会を安全に開催するため、大会前の消防・避難訓練や大会中の施設内の見回り点検を組織委員会と連携して行うなどの必要な対策を講じた。また、大会終了後には、大会使用による破損・汚損等の対応を組織委員会とともに行い、適切に原状回復を行った。</p> <p>○日々の見回り・点検を徹底し、故障やトラブルの防止・早期発見に努めている。また、避難訓練をはじめ、適時、非常時の利用者へのアナウンス、避難ルートなどの対応策を全関係者で確認・共有するとともに、非常用発電機の保守管理を徹底し、災害に備えている。</p>
事業効果	利用状況	利用状況	<p>○緊急事態宣言や東京2020大会開催に伴う閉館があり、一般開放日に制限があつたが、年間延べ175,534人（団体利用延べ122,802人、個人利用延べ52,732人）の方にご利用いただいた。（令和2年度対比89.9%（83,103人）増）</p> <p>○メイン・サブアリーナは、新型コロナウイルス感染症を理由とする直前のキャンセル等が多かつたため、施設の稼働率（利用日数／利用可能日数）は、メインアリーナが57.7%、サブアリーナが81.3%となつた。一方、ジム・プールは稼働率が100%となり、多くの方にご利用いただいた。</p>
	スポーツ振興事業等の実施状況		<p>○新型コロナウイルス感染症の影響により、中止や回数を減少せざるを得ない事業もあつたが、感染症対策を的確に講じたことで多くの方に安心してご参加いただき、スポーツや文化活動等を楽しむ機会を提供することができた。</p> <p>スポーツ振興事業：17事業のうち12事業実施、2事業回数減（延べ600名参加） 地域貢献事業：13事業のうち7事業実施、2事業回数減（延べ564名参加）</p>
	自主事業の実施状況		<p>○プールとスタジオを合わせて、年間44本のレッスンプログラムを提供し（スタジオ34本、プール10本）、延べ18,737人にご参加いただいた。</p> <p>○長期閉館の影響を受け、フリーパス・スクール会員が大きく減少したが、閉館期間を利用した研修受講で指導力アップを図るとともに、利用者ニーズに沿ったプログラムの提供に取り組むことで、回復基調が見えてきた。</p>
	サービス向上に向けた取組		<p>○大型イベント開催時には、館内のカフェ・売店営業に加え、味の素スタジアムとの連携でペDESTリアンデッキ上にキッチンカーを出店。混雑回避により感染症拡大を防止するとともに、施設利用者を楽しんでいただけるよう工夫した。</p>
	利用者ニーズの把握		<p>○イベント主催者を含めた利用者との積極的な対話から、ニーズをタイムリーに把握し、事業内容や施設運営に反映させている。</p> <p>○その他、館内のご意見箱や利用者アンケート等も活用し、利用者の意見・要望を把握。頂戴したご意見については、随時、関係部署と共有し、改善・対応策を検討・実施している。</p> <p>○令和4年1・2月に実施した利用者満足度調査の「総合満足度」項目では、ジム・プールの利用者は99.5%、メインアリーナの利用団体（スポーツ協会、イベントプロモーター）は平均91.3%、サブアリーナの利用団体は100%から「十分満足」「まあ満足」との回答を得た。その他、「清掃状態（清潔さ）」「スタッフ対応」「感染症拡大防止策」でも高い評価をいただくなど、総じて満足度は高くなっている。</p>
	利用促進への取組		<p>○団体利用や個人利用の料金の支払い方法について、クレジットや電子マネー、QRコード等のキャッシュレス方法を導入し、感染症拡大防止と利便性向上の取組を行った。</p> <p>○施設HPやチラシ等を活用した周知を行うほか、味の素スタジアムと合同でイベントパンフレットを作成し、近隣自治体や近隣駅等を通じて周知を図っている。</p>
その他		<p>○新型コロナウイルス感染症対策として、利用者の体調管理確認を徹底。消毒液や非接触型体温計の各所設置、施設各所の利用人数の制限を行っている。また、ジム・プールエリアの混雑状況を確認したいという利用者ニーズに応え、昨年度に引き続き、リアルタイムの利用者数を館内モニターとYoutube配信で提供し、多くの方に視臨いただいた。</p> <p>○メインアリーナ、サブアリーナにて、異なる団体が使用する場合、間に清掃時間を設け連続使用を避けるなど新型コロナウイルス感染症対策を徹底している。</p> <p>○味の素スタジアムと共同で実施している「味スタ感謝デー」について、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を見合わせたが、令和3年度は、オリンピックによる体操指導や地元アーティストによる発表の場などを盛り込んだコンテンツをオンラインにて提供し、多くの方楽しんでいただくことができた。</p>	

事業報告概要書

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名
東京都障害者総合スポーツセンター	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会
2 収支の状況(単位:円)	
項目	金額
収入 計	504,772,009
指定管理料	501,689,000
その他	3,083,009
支出 計	512,775,025
収支差	△ 8,003,016

3 管理運営の概要

管理状況	適切な管理の履行	(6) 人材育成の取組	<ul style="list-style-type: none"> ●全ての職員が質の高いサービス提供をすることを目的として、職員研修実施要綱に基づき内部研修及び外部研修を実施した。 ●人材育成の観点から独自の助成制度により職員の資格取得を支援した。取得状況は次のとおり。 健康運動指導士(1名)、上級障がい者スポーツ指導員(1名)、中級障がい者スポーツ指導員(2名) 初級障がい者スポーツ指導員(6名) 	
	法令等の遵守	(3) 環境配慮への取組	●電力購入契約業者の更新に当たり、再生エネルギー100%の電力会社へ切り替えるなど、環境配慮への取組を強化した。	
	安全性の確保	(3) 防災への配慮・緊急時対策	<ul style="list-style-type: none"> ●各都の都立施設と合同で総合防災訓練を実施し、有事の際のお互いの連携や課題を確認した。 ※ 東日本大震災を契機に「災害活動相互応援協定」を結び11年前から実施 ●防災教育推進委員会(近隣2校、北療育医療センター、北区役所、消防署、警察署で構成)、2校合同防災研修会に参加した。備蓄倉庫の確認の他、意見・情報交換を行い、地域と連携して防災に取り組んだ。 ●夜間宿舎時など人数の少ない状況での災害を想定し、夜間防災訓練を実施した。 ●当講義命講習会を開催した(例年実施)。センター職員の他、夜間警備員や施設運営に関わる機械管理、館内清掃、レストランのスタッフまで参加を義務付けている。結果として救命講習受講優良認定を受けている。 	
	適切な財務運営・財産管理	(2) 経理処理	<ul style="list-style-type: none"> ●指定管理業務とその他業務を会計上明確に区分し経理している。 ●収支状況は財務会計システムを用いて日々処理、記録するとともに、帳簿、関係書類にしっかりと出力、保存し明確化している。 	
事業効果	利用状況	(1) 利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ●令和3年度も新型コロナウイルス感染症による開放施設縮小を余儀なくされたが、施設ごとの定員設定、消毒の徹底、入館前の体調確認や利用者への利用方法遵守の確認を行う等、感染防止対策を確実に実施しながら、感染状況に応じた段階的な開放施設の拡大を図り、利用者の安全安心な利用促進に努めた。 ●令和3年度の利用者総数は、延べ17,066人で、令和2年度の7,354人より増加した。開館日数も令和2年度の176日から278日に増加した。 	
	事業の取組み	(1) スポーツ振興事業又は障害者スポーツ振興事業等の実施状況	<p>都区内におけるより身近な地域での障害者スポーツ振興に向け、障害者スポーツセンターの特性を活かし、以下の1～3の取組を行った。これらの取組を絶えず実践しつつ、オンライン活用も積極的に取入れ、センターの中核機能である広域スポーツセンター(障害者版)としての機能を強化することで、地域の拠点としてスポーツを通じた共生社会の実現に寄与している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害者専用スポーツ施設としての機能充実 <ul style="list-style-type: none"> ●利用者が、安全・安心・公平に、継続的なセンター利用を実施していく事ができ、「リハビリテーションから健康の維持・増進」「楽しむスポーツから競技スポーツ」等、様々な利用目的やニーズに対応ができるよう、センター最大の特長である各施設へスポーツスタッフを「全施設に全時間」配置するとともに、研修を継続的に実施することで日常的に質の高い支援サービスの提供に取り組んだ。 ●コロナ禍で止む無く中止せざるを得ない事業もあったが、障害の種類・程度、利用目的、運動経験や年代に応じた日常の支援に加えて、各種健康スポーツ相談や目的やレベルに応じた教室・大会、専門分野との連携となる医療連携講座等の事業を実施した。 ●菅川スポーツ財団との共同研究で「障害者スポーツ専用施設あり方に関する研究」「障害者スポーツ専門職のあり方に関する研究」「潜在的ユーザーに関する研究」の3つの柱を中心に、更なるサービスオリティの向上や新規利用者の獲得等を目指し調査・検討を行った。 ●利用者の安全・快適な利用のため、職員のスポーツ支援時の対応についての資質向上に向けた各種目や安全管理に関する研修を年間236回実施した。 ●スポーツスタッフは水上安全(弱者救助法、心肺蘇生法)に係る研修を毎月1回以上実施し、利用者の安全・安心なプール利用に努めた。 2 東京都全域のスポーツ振興の推進 <ul style="list-style-type: none"> ●関係機関・団体との連携として、主に以下の取組を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ●東京都障害者スポーツ協会・大田市長園障がい者スポーツセンター・多摩障害者スポーツセンターの4者でオンラインで事業を協働実施した。 ●スペシャルオリンピックス日本・東京、日本障がい者スポーツ指導者協議会の障がい者スポーツリーダー部会、関東ブロック協議会への参画・助言を実施した。 ●「障害者スポーツ相談事業」としては27件の問い合わせに対して、15件をリモート対応した。主な相談は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・江東区深川北スポーツセンター…障害者の体力測定についての相談、プロボノ活用事業への助言 ・Google社…同社事業であるProject Guideline(視覚障がいの方が一人でランニングするための支援システム)の協働に関する相談 ・こどもん共済…同協会が取り扱う「こどもの成長支援プロジェクト」の一環である「ほつれ」の販売に関する障害児の参加に向けての相談 ・墨田区…障害者スポーツ推進協議会の活動の活性化に向けた地域スポーツアドバイザーとしての参画 ●地域振興事業は、職員派遣やリモート対応を含み、学校、行政、医療機関、福祉施設等のセンター見学会の対応を年間7件行うなど年間37件を実施した。 ●NPO法人スマイリーサン(重度心身障害児団体)への職員派遣…オンラインを活用した障害状況の事前収集により非常に満足度の高いプログラムが提供できた。 3 障害のある方へのスポーツ実施率向上のための取り組み <ul style="list-style-type: none"> ●地域及び医療・福祉教育機関との連携を更に深め互いの情報交換のネットワークを構築することができた。実績は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・東京都理学療法士協会、東京都作業療法士会との連携によりスポーツ教室を実施した。 ・新たに日本作業療法士協会と連携し、当センター次年度新規事業(はじめる！eスポーツ体験)の企画・立案を調整した。 ・新たに東京保健医療専門職大学との連携を開始し、事業への講師派遣及び学生ボランティアの活用を推進した。 ※ 今後の地域交流事業「スポーツ祭」で、学生による相談ブースの設置を視野に入れ企画調整中。 ●1月に実施した医療・福祉・教育連携講座において、練馬区、大田区の地域スポーツクラブとの連携・協働を調整 	
			(4) 利用者に対するサービス提供事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ●第三期指定管理の6年目にあたり、申請書(中間年の事業計画書の見直しを含む)の記載事項を踏まえ、施設の効率的な運営と利用者支援の充実の為、利用者の障害の種類・程度、ライフスタイル・ライフスタイルなどに合わせたサービスの充実を図った。また、広域スポーツセンターとして協会事務局と一体となり地域での障害者スポーツの振興を推進した。 ●平成29年度に当協会が策定した中期計画である「東京における障害者スポーツ振興ビジョン」の実現に向けて引き続き計画的に取り組んだ。 ●コロナ禍で来館型の実施が困難な中でもオンラインでの事業を展開し、新たな利用者層の獲得や新たな支援サービスの提供への感触をつかんだ。
			(5) 利用者ニーズの把握 (6) 利用者の満足度 (7) 苦情等への対応	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者アンケート調査の実施に際し、菅川スポーツ財団との共同研究を踏まえたアンケート調査表を作成し、利用者ニーズの把握によるサービスの質の向上を図った。アンケート結果では、有効回答数249名で、総合評価では96.2%の方から十分満足、まあ満足という回答を得た。 ●館内に投票箱を設置し、利用者からの要望・意見を把握するとともに館内掲示版にて回答した。 ●多摩スポーツセンターと合同の「利用者の声調整委員会」(社会福祉士、障害当事者、弁護士3名で構成)を設置し、四半期ごとに利用者からの苦情や要望等への対応を協議し、運営の改善に努めた。 ●ホームページ上には問い合わせフォームを設置し、幅広い意見・要望に対してメールでの回答を行った。
(8) 利用促進への取組	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍にあっても利用者の「安全」「安心」「目的に応じた支援サービス」の提供を維持しつつ、これまでスポーツ活動を行っている方がスポーツへの興味関心を失わないように、またこれからスポーツ活動を始めたい方に対してスポーツにチャレンジする場や機会を減少させないように、以下の取組を行った。 ●ホームページを9月にリニューアルし、アクセシビリティを改善した。また、従来の施設紹介動画に設置目的や利用者インタビューなどを入れた動画を配信した。さらに、3月にはその英語版を作成・配信し、新たな利用者層の獲得を図った。 ●動画による「体操」「スポーツ入門教室」を配信した(計15本) ●個人・団体を対象としたオンライン教室を開催した(計26回) ●オンラインを活用した地域交流事業等を開催した ●1月に「eスポーツ祭」(トークショー、スポーツ体験イベント)を参集型とオンラインのハイブリッドで開催し、アーカイブ配信も行った。 ●フォローアップ講習会、初級障がい者スポーツ指導員養成講習会をオンラインで実施した。 			
(9) その他	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の蔓延を受け、基礎疾患や既往歴のある利用者の特性を鑑み、利用者に「安全」「安心」にご利用いただくため、「うつさない」「うつらない」取組を実施しながらの施設運営を行った。具体的には、スポーツ施設「社会体育施設等の再開館に向けた感染予防ガイドライン」や東京都策定「都立体育施設等の再開館に向けた感染予防ガイドライン」等を踏まえ、以下の感染拡大防止策を徹底した。 <ul style="list-style-type: none"> ●各施設の定員を設け、入館者数の上限を設定した。 ●感染状況により事前予約制も取入れ「午前」「午後」「夜間」の時間帯で全ての利用者を入替え、その間に各施設の消毒を徹底した。 ●各施設での感染予防策の徹底として、スタッフは常時マスクの着用、手指消毒の徹底、施設ごとの行動管理表の記録管理を行い、2mのソーシャルディスタンスを意識した対人支援に努めた。 ●利用者に入館前の手指消毒と検温、館内でのマスク着用と体調管理表の提出を求めた。 			

事業報告概要書

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名
東京都多摩障害者スポーツセンター	公益社団法人東京都障害者スポーツ協会

2 収支の状況	
項目	金額
収入 計	339,412,006
指定管理料	339,412,000
その他	6
支出 計	335,547,370
収支差	3,864,636

3 管理運営の概要

管理状況	適切な管理の履行	(6) 人材育成の取組	<ul style="list-style-type: none"> ●全ての職員が質の高いサービス提供をすることを目的として、職員研修実施要綱に基づき内部研修及び外部研修を実施した。 ●人材育成の観点から独自の助成制度により職員の資格取得を支援した。取得状況は次のとおり。 中級障がい者スポーツ指導員（1名）初級障がい者スポーツ指導員（2名）
	法令等の遵守	(3) 環境配慮への取組	●電力購入契約業者の更新に当たり、再生可能エネルギー100%の電力会社へ切り替えるなど、環境配慮への取組を強化した。
	安全性の確保	(3) 防災への配慮・緊急時対応	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者の安全・快適な利用のための職員研修を実施した。 ●所轄消防署の協力のもと、心身障害者福祉センター多摩支所と合同で東日本大震災を想定した総合防災訓練を実施した。 ●東京都の一時滞在施設に指定されていることに関連した各種訓練に参加した。 ●応急手当普及員による普通救命講習をセンター職員向けに実施した。 ●若朽化が見られるサクラの樹木診断を実施し、枝の剪定及びワイヤー設置による倒木防止措置を実施した。 ●スポーツスタッフは水上安全（溺者救助法、心肺蘇生法）に係る研修を毎月1回以上実施し、水難事故の防止に努めた。
	適切な財務運営・財産管理	(2) 経理処理	<ul style="list-style-type: none"> ●指定管理業務とその他業務を会計上明確に区分し経理した。 ●経理状況は財務会計システムを用いて日々処理、記録するとともに、帳簿、関係書類にしっかり出力、保存し明確化した。
事業効果	利用状況	(1) 利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ●令和3年度も新型コロナウイルス感染症による施設閉鎖期間はあったものの、感染状況に応じた段階的な開放施設の拡大を図ると共に、参集型との併用も含めたオンラインでの事業実施を実施するなど、利用者の利用促進に向けた事業運営を行った。 ●東京都のガイドライン等を踏まえた感染拡大防止を徹底し、感染防止対策に努めながら運営を行った。 ●令和3年度の利用者総数は、延べ13,371人で、令和2年度の7,199人より増加した。開館日数も令和2年度の182日から264日に増加した。
	事業の取組み	(1) スポーツ振興事業又は障害者スポーツ振興事業等の実施状況	<p>1 障害者専用スポーツ施設としての機能充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ●センター最大の特徴であるスポーツスタッフの「全施設全時間」配置により、利用者の安全安心、公平かつ有意義な利用に資するとともに、障害の種類、程度、利用目的、運動経験、性別、年齢等を踏まえた日常的なスポーツ支援を実施した。 ●医師、理学療法士、管理栄養士が専門的な立場から健康管理や運動内容等についてアドバイスを行い、安心してスポーツ等に取り組んだ。 ●運動相談では当センターのスポーツスタッフが、個々の障害種別や程度に応じた運動指導や運動プログラムの作成を行い、安全で効果的なスポーツ活動への取り組み支援を行っている。 ●アシストサービス（はじめての運動施設体験）は、新規登録者を対象として更衣室や各施設の利用方法等について説明し、いち早くスポーツ活動ができるようスポーツスタッフをはじめセンター職員が連携して対応した。 ●相談事業については91件149名に実施した。 ●笹川スポーツ財団との共同研究においては「障害者スポーツ専用施設のあり方に関する研究」、「障害者スポーツ専門職のあり方に関する研究」、「潜在的ユーザーに関する研究」の3つの柱を掲げ、障害のある方へのサービスの質の向上や新規利用者の獲得等を目指し、調査・検討を行った。 <p>2 東京都全域のスポーツ振興の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域におけるスポーツ振興では、障害のある市民が居住地域等の身近な場所でスポーツ活動を楽しめる環境整備を目指して、次のとおり取り組んでいくこととした。 ・「障害者スポーツ相談事業」等の地域振興事業を通じて、地域における障害者スポーツのスポーツアドバイザーとして地域と協働する。 ・関係団体等の活動状況やニーズの把握、スポーツ事業へ協力する ・障害者スポーツ支援者・指導員を養成・育成し活用していく ・市区町村及び地域のスポーツ活動推進体制構築への協力、助言・指導を行う。 <p>上記を踏まえ令和3年度は、新型コロナウイルス感染症防止策によりスポーツセンター施設の開放状況の制限や中止となる事業がある中での運営となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域振興事業…「障害者スポーツ相談」ではオンライン対応により企画運営等の相談を行い、12件の問い合わせと3件のセンター見学会を実施した。相談を受けた地域主催イベントはコロナ禍の影響で中止となるものが多かったが、うち2件（国立市、府中市）はオンラインに切り替えて実施され、当センターも動画配信提供という形で参加協力した。 ●医療連携…「医療福祉教育連携講座」をオンラインで実施。4名の参加にとどまったが、スポーツセンターの健康スポーツ事業の紹介や医師によるスポーツ医事相談等の事例報告、施設紹介動画による事業等の案内が実施できた。
		(3) サービス向上に向けた取組	<p>3 利用者の特性を踏まえた適切な利用者支援</p> <p>コロナ禍での制限を大きく受ける中ではあったが、誰もが安心・安全にスポーツ活動ができる取り組みとして、年齢や障害の種類・程度、ライフステージ・ライフスタイルに合わせたスポーツ教室やレクリエーションプログラム、大会やイベント、講習会など多彩なプログラムを計画し実施した。主な内容は以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ジュニア（幼少児）世代がスポーツに取り組む機会と場所の提供を行い、継続的にスポーツに取り組むきっかけづくりを目的にジュニア対象教室の3教室を計画した（うち実施1回）。また、「GoGo親子で運動タイム」の動画を4回に渡り配信し、令和3年3月31日現在1253回の視聴があった。 ●重度障害者対象教室では、「のびのびフールのひろば」の教室を実施した。障害特性による波立ちの少ない状況を作り出し、重度の障害のある方でも楽しくレクリエーションができる内容とした。 ●介護予防支援としてはターゲット層となる高齢障害者に対して、健康の維持増進、日常生活の向上を図るため手軽にいつでも実践することができることを目的とし、「TAMIA介護予防運動」を公式YouTubeを活用した動画の配信と参集型教室の両方で計画した。参集型教室の開催は1回のみの実施に留まったが、公式YouTubeを視聴していただくことで運動の継続へと繋ぐことができた。 ●スポーツ導入教室の「ヨガの時間」においては、参集型、オンライン型の両方で実施し、いつでもどこでもスポーツを楽しむことができる機会を創出した。 ●公式YouTubeを活用した動画の配信については、サウンドテーブルテニス（STT）では視覚障害者のプレーヤーを講師とし、言葉使いや、動作についても聞き手に伝わり易く配信できた。また、「作ってチャレンジ！レクタイム」においては身体を動かさなくても、簡単に自作できるツールを活用して日常のレクリエーション活動へと繋がった。 ●オンラインや公式YouTubeを活用しての事業展開は一定の視聴もあり参集型教室の中止のある中で障害のある方のスポーツ機会を創出する一助となったものと推測する。令和3年度公式YouTube視聴回数：延べ4640回
		(4) 利用者に対するサービス提供事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ●第三期指定管理の6年目にあたり、申請書（中間年の事業計画書の見直しを含む）の記載事項を踏まえ、施設の効率的な運営と利用者支援の充実のため、利用者の障害の種類・程度、ライフステージ・ライフスタイルなどに応じたサービスの充実を努めた。また、広域スポーツセンターとして協会事務局と一体となり地域での障害者スポーツの振興を推進した。 ●平成29年度に当協会が策定した中長期計画である「東京における障害者スポーツ振興ビジョン」の実現に向けて引き続き計画的に取り組んだ。 ●コロナ禍で従来型の事業の実施が困難な際は、オンラインで事業の開催や動画配信によりサービスを提供した。後期は参集型事業も再開しつつ、オンライン参加の同時並行による運営を行った。これにより新たな利用者層の獲得や新たな支援サービスの提供への感触をつかんだ。
(5) 利用者ニーズの把握 (6) 利用者の満足度 (7) 苦情等への対応	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者アンケート調査の実施に際し、笹川スポーツ財団との共同研究を踏まえたアンケート調査表を作成し、利用者ニーズの把握によるサービスの質の向上を図った。 ●利用者アンケート調査では、有効回答数164名で、総合評価では95%の方から十分満足・まあ満足という回答を得た。 ●館内に投書箱を設置し、利用者からの要望・意見を把握するとともに館内掲示板にて回答した。 ●総合スポーツセンターと合同の「利用者の声調整委員会」（社会福祉士、障害当事者、弁護士3名で構成）を設置し、四半期ごとに利用者からの苦情や要望等への対応を協議し、運営の改善に努めた。 ●ホームページ上には問い合わせフォームを設置し、幅広い意見・要望に対してメールでの回答を行った。 		
(9) その他	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の蔓延を受け、基礎疾患や既往歴のある利用者の特性を鑑み、利用者「安全」「安心」にご利用いただくため、「うつさない」「うつらない」取組を実施しながらの施設運営を行った。具体的には、スポーツ庁策定「社会体育施設等の再開館に向けた感染予防ガイドライン」や東京都策定「都立体育施設等の再開館に向けた感染予防ガイドライン」等を踏まえ、以下の感染拡大防止策を徹底した。 ・各施設の定員を設け、総入館者数の上限を設定した。 ・感染状況により事前予約制も取入れ「午前」「午後」「夜間」の時間帯で全ての利用者を入替え、その間に各施設の消毒を徹底した。 ・各施設での感染予防策の徹底として、スタッフは常時マスクの着用、手指消毒の徹底、施設ごとの行動管理表の記録管理を行い、2mのソーシャルディスタンスを意識した対人支援に努めた。 ・利用者に入館前の手指消毒と検温、館内でのマスク着用と体調管理表の提出を求めた。 		

事業報告概要書

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名
海の森水上競技場	海の森水上競技場マネジメント共同企業体
2 収支の状況 (単位:円)	
項目	金額
収入 計	303,904,866
指定管理料	299,876,342
利用料金	3,915,075
その他	113,449
支出 計	300,892,928
収支差	3,011,938

3 管理運営の概要		
管理状況	水上競技施設の管理	<ul style="list-style-type: none"> ●水面の安全管理には細心の注意を払い、動力船に乗船する者、水面付近を視察する者についてはライフジャケットの装着を義務付けるなど利用者の安全確保を徹底した。 ●東京2020大会期間(公式練習含む)中は施設設備の不具合など競技運営に支障が出ないよう、JV本社や本部の協力を得ながら24時間体制で対応した。期間中、問題等は発生せず無事に大会は終了した。 ●東京2020大会の会場設営期間中および大会期間中(組織委員会の指定期間)、水門を閉鎖して水位を一定にするとともに、水質保持のための揚排水ポンプの稼働を実施し、常に安定した競技コース条件の確保を徹底した。また、日常点検、定期点検、臨時点検及び定期運転を実施し、常に良好な状態を維持した。 ●東京2020大会時には競技開始時間までの限られた中、早朝においては日の出とともに競技コースの水面清掃を行い、良好な競技環境の維持に努めた。競技コースの清掃状況について、各競技団体からもしっかりと管理されている旨の評価を頂いた。 ●毎日の施設巡回点検、毎月の安全点検パトロール及び適宜水上清掃を実施するとともに、競技場コース(2000m)周辺において200mおきに救命員BOXを設置し、落水等が発生した場合、速やかに救助活動を行えるよう安全管理に取り組んでいる。 ●東京都組織委員会と調整のうえ暑熱対策としてミストシャワー装置を設置し、オリンピック期間中の稼働をおこなった。また、プランター花壇と組み合わせることで会場に彩りを添えることができた。
	人材育成の取組	<ul style="list-style-type: none"> ●東京2020大会を踏まえ朝礼時において挨拶練習、手話、簡単な英会話練習を実施し、マナーアップの啓発を行った。 ●全スタッフが担当以外の業務も複数対応(マルチ化)できるよう、ミーティング等を繰り返し業務の効率化を行った。
	施設の提供について	<ul style="list-style-type: none"> ●競技団体へ競技大会開催の働きかけや、水域の利用が考えられる団体への営業を行なった。また、競技団体だけでなく、東京都が示しているユニークベニューの有効利用の観点から、音楽イベントやその他団体の利用を促すような誘致を行った。 ※現在、令和4年度の施設利用促進に向け各競技団体(カヌー4件・ポート4件・トライアスロン2件)、その他団体3件の利用申込みが入っている。また、令和4年度4月の再開業に向け音楽イベント実施することになり、再開業と一緒に盛り上げることになった。 ●なお、旅行会社(JTB)とは社員研修や社会科見学コースにおける施設利用の可能性の模索、イベント及びマスコミ関係者については音楽コンサートの開催の検討、その他一般団体についてはファッションショー及び屋外シアターの開催について問い合わせがあり、実施に向けた現地案内や意見交換をおこなった。
	法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ●災害発生時の緊急連絡体制については、管理事務所に掲示し速やかに対応できるようにした。 ●東京2020大会会場であることを踏まえ、東京都、内閣府、警視庁及び組織委員会の警備部門などの指導や研修を受講した。サイバーセキュリティ対策の策定、情報システムやネットワーク等のセキュリティ強化、ネットワークを利用する全スタッフへのセキュリティ研修実施など、ハード・ソフト両面で対策を強化した。 ●また、東京都、警視庁及び内閣官房等が主催する研修や演習、リスク評価等に積極的に参加するなど関係機関との連絡体制構築やサイバーセキュリティに対する意識向上に努めた。
事業効果	の安確全保性	<ul style="list-style-type: none"> ●東京2020大会の消防体制は組織委員会の消防体制に指定管理者が組み込まれる体制となり、大会前には消防機関の指導のもと、組織委員会と合同の消防訓練を行い有事に備えた。
	スポーツ振興事業又は障害者スポーツ振興事業等の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ●早朝利用のニーズを踏まえ、管理者の早朝勤務を期間中実施。感染予防対策を徹底的に実施。満足度が上昇した。組織委員会からの要望を踏まえ、競技に支障のある場合の恒久施設の対応を想定し、東京2020大会の準備や競技期間については、24時間体制を整えて緊急事態に備えた。 ●ポートのアジアオセアニア大陸予選でも早朝の開場や開館のニーズがあったため、早朝シフトを組み柔軟に対応した。 ●感染予防については、東京都組織委員会と直前まで調整し、大陸予選や東京2020大会時に着実に実施した。なお、感染予防のため選手たちの施設滞在時間を避けた時間帯での作業を徹底した。
	利用者の満足度	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者ニーズを把握し、業務に反映させる方策としてアンケート調査を実施する予定であったが、今年度は東京2020大会の開催及びコロナ禍の影響により、アンケート調査を実施する状況ではなかった。しかしながら各IFをはじめとする各競技団体からしっかりと管理されているとの評価を頂いた。 ●R3年度は、東京2020大会準備や運営のため組織委員会の施設利用が中心であったが、東京2020大会後に近隣4区を対象にインターネットによるアンケート調査(ネットリサーチ)を実施し、利用者のニーズを把握した。この結果を踏まえ次年度以降の運営に反映させる予定である。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●当共同構成団体が指定管理者となっているカヌー・スラロームセンターとの情報共有を行うとともに、再開業に向け江東区など周辺自治体との情報収集など地元の団体など連携強化を進めているところ。 ●また、海の森公園との連携を深めるため、港湾局海上公園課が事務局を担う海の森倶楽部に共同企業体の代表団体が加入し、海の森水上競技場と海の森公園の連携イベント等の実施など両施設が活性化されるよう連携を深めている。 ●海の森倶楽部に所属する音楽イベント事業者から、海の森公園と水上競技場を会場とした音楽イベントの優先受付の申し込みがあり、開催に向けて東京都オリパラ準備局や港湾局海上公園課と調整を続けている。 	

令和3年度 管理運営状況 (海の森水上競技場)

指定管理者： 海の森水上競技場マネジメント共同企業体

管理状況

適切な管理の履行 水上競技施設の管理



競技コース清掃
(東京2020大会期間中は早朝から競技開始前まで実施)

管理状況

適切な管理の履行 水上競技施設の管理



ポンツーンの縁に付着したカキガラ等の清掃

管理状況

安全性の確保 防災への配慮・緊急時対応



東京2020大会組織委員会との合同消防訓練



ミストシャワーと花壇を組み合わせた暑熱対策

事業効果

利用状況 団体利用状況

- ・ アジア・オセアニア大陸予選（ボート） 2021年5月5日（水）～5月7日（月） 総入場者数 2,519人



- ・ 東京2020オリンピック競技大会（ボート） 2021年7月23日（金）～30日（金）
- ・ 東京2020オリンピック競技大会（カヌー・スプリント） 2021年8月2日（月）～8月7日（土）
- ・ 東京2020パラリンピック競技大会（ボート） 2021年8月27日（金）～29日（日）
- ・ 東京2020パラリンピック競技大会（カヌー・スプリント） 2021年9月2日（木）～4日（土）

事業効果

事業の取組み 多様な利用者に配慮した案内・環境整備



外国からのお客様対応として外国語の翻訳機や外国語版のパンフレットのご用意

事業報告概要書

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名
夢の島公園アーチェリー場	アメニス夢の島グループ

2 収支の状況（単位：円）	
項目	金額
収入 計	20,731,318
指定管理料	20,085,272
利用料金	646,046
その他	0
支出 計	21,863,665
収支差	△ 1,132,347

3 管理運営の概要			
管理状況	適切な管理の履行	<p>施設・設備の定期保守整備</p> <p>芝刈り作業や定期設備点検など、管理運営基準に則り、必要な維持管理業務を実施した。また、東京2020大会においては、大会組織委員会と密に情報連携を図り、早朝における草刈り作業など、大会日程を踏まえた柔軟な対応を行い、大会運営に全面的に協力した。</p> <p>修理・修繕</p> <p>東京2020大会前に発生した雨漏りについては、施工業者と連携の上、迅速な修繕対応を行った。会期中は降雨もあったが、大会への影響は発生しなかった。</p> <p>また、射場の舗装が白華現象を起こしており、美観や反射の影響などが課題となったが、除去作業を断続的に実施し、東京2020大会前には対応を完了し、円滑な大会運営に貢献した。</p> <p>人員配置</p> <p>夢の島公園、夢の島熱帯植物館と同一の指定管理者で運営を行っており、10/31の再開業イベントにおいては、芝の保全や車の整理など公園管理の基本的なことから、植物館の展示物を活用したり、テントやディスプレイの設営に至るまで、グループの強みを活かし、利用者満足度の向上に繋げることができた。</p> <p>また、日常的な管理運営においても、電話対応など、両者で連携の上、適切に対処した。</p> <p>施設の提供について</p> <p>上半期は、東京2020大会を控えた制限があった中、大会組織委員会の大会準備・運営に協力し、会場の良好な維持に努めた。</p> <p>下半期は、10/31の再開業イベントを境に、一般供用を開始し、既存のアーチェリー団体の利用に加え、自主事業の展開やその他スポーツ（フライングディスク等）の誘致を行うなど、それぞれのニーズに合わせて会場の提供を行った。</p> <p>設備の清掃（清潔さ）</p> <p>清掃作業基準に則り、日々の清掃作業及び点検を実施し、報告を行った。</p>	
	安全性の確保	<p>施設・設備の安全性の確保</p> <p>下半期は、仮囲いが撤去された中、アーチェリー団体使用時の安全対策の実施と一般開放時の自由な芝生広場の提供を両立させて行った。</p> <p>防災訓練の実施、消防設備点検</p> <p>2/24に公園、植物館と合同で通報訓練・避難訓練を実施した。最終避難場所をアーチェリー場とし、避難訓練終了後、火災を想定した消火訓練を実施した。</p>	
	法令等の遵守	<p>都への報告・連絡</p> <p>東京2020大会期間中、選手送迎の運行バスが、公園の園路際の擁壁と接触する事故が発生したが、東京都に速やかに報告し、指示を仰いだ。</p> <p>気象災害では、台風や降雪時などの施設損傷の有無などを適切に報告した。</p>	
	事業効果	利用状況	<p>利用状況</p> <p>東京2020大会の他、全日本アーチェリー連盟、東京都アーチェリー協会、関東学生アーチェリー連盟等で15試合、22日間実施した。コロナ感染症が爆発的に増加する中、感染症対策を徹底して実施した。大会実施日以外では、芝生広場として、広く公園来場者に利用いただいた。</p>
		自主事業の実施状況	<p>10/31、新規恒久施設で最初となる再開業イベントを実施した。天候には恵まれなかったものの、良好なアンケート結果をいただいた。また、夢の島熱帯植物館と連携し、ハロウィンにちなんだお化けカボチャをイベント会場に設置し、フォトスポットとして活用するなど好評を得た。</p> <p>3/25、青空ヨガ教室を実施した。</p> <p>3/30、フライングディスク体験教室を実施した。</p> <p>3月以降、キッチンカーを招聘し、2社の自動販売機を設置することで、利用者サービスの向上を図った。</p>
		新型コロナウイルスへの対応	<p>大会・イベント等では、検温の実施、体調管理シートの提出、アルコール除菌の徹底、コロナ見守りサービスへの登録案内など、基本的な注意事項をもれなく実施し、新型コロナウイルスの感染予防に努めた。</p>

令和3年度 夢の島公園アーチェリー場 活動報告

10/31 オープニング体験会

アーチェリー以外の

夢の島公園アーチェリー場

オープニング体験会

小雨 決行

10/31 日曜日 入場無料
10:30~16:30 要事前予約

アーチェリー体験教室
ミニアーチェリー体験
タッチラグビー体験教室
フライングディスク体験教室

お申し込みは夢の島公園アーチェリー場
〒136-0081 東京都葛飾区新木場2-1-2
03-5522-1588
https://www.yumenoshima.jp/archery/



オープニング体験会ではアーチェリー、ミニアーチェリーに加えて、フライングディスク、タッチラグビーなど幅広いスポーツを紹介した。

生憎の天候であったが利用者の満足度を高められた。

3/25 親子で楽しむ青空ヨガ教室

夢の島公園アーチェリー場で

親子で楽しむ青空ヨガ教室

親子でいても、もちろん一人での参加も大歓迎です！
夢の島公園アーチェリー場で、自由に飛び出しヨガをしてみませんか？

開催日: 3/25 金 10:30~16:30 定員30名

参加費用: 大人1,000円 小学生以下無料

お申し込みは夢の島公園アーチェリー場
〒136-0081 東京都葛飾区新木場2-1-2
03-5522-1588
https://www.yumenoshima.jp/archery/



1~2月についてはコロナ感染症がピークでようやく3月に実施した。

参加者には満足度を戴いた。

3/30 フライングディスク体験教室

夢の島公園アーチェリー場で

フライングディスク体験教室

に参加してみませんか？

昨年10月31日に行われた夢の島公園アーチェリー場の「オープニング体験会」でも好評をいただいたフライングディスクが帰ってきました。

開催日: 3/30 水
午前の部: 10:00-12:00
午後の部: 13:00-15:00

お申し込みは夢の島公園アーチェリー場
〒136-0081 東京都葛飾区新木場2-1-2
03-5522-1588
https://www.yumenoshima.jp/archery/



同じく3月に実施。

東京都フライングディスク協会の協力により実現した。

参加者には満足度を戴いた。

3/26,27 キッチンカーを招聘



3月26日、27日のアーチェリーの大会にキッチンカーを招聘。

この時に実施した課題を踏まえて、

- 出店の位置、向き
- 事前のPOPでの告知
- 看板の位置

等を改善し、継続してブラッシュアップを図り現在に至っている。

事業報告概要書

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名
カヌー・スラロームセンター	株式会社協栄

2 収支の状況(単位:円)	
項目	金額
収入 計	243,920,980
指定管理料	174,485,620
利用料金	23,104,875
その他	46,330,485
支出 計	236,813,306
収支差	7,107,674

3 管理運営の概要				
管理状況	適切な管理の履行	施設・設備の保守点検	<ul style="list-style-type: none"> 〔日常管理・定期点検の徹底及び見える化の推進〕 ・機器の管理基準値を検針表に記載することや、メーター自体に印をつける等、『誰が検針をしても異常を確実に検知できる仕組み』での運用に加え、データは必要に応じてグラフ化し、視覚的に状況が把握できるようにした。使用量の把握や分析、過不足ない薬剤発注など効率的な管理に繋がった。 ・年間作業計画表を張り出すとともに、月毎、日毎にミーティングで、設備担当者全員に作業内容を共有した。その上で、屋外施設であることから、天候に左右されるものや状況に応じた調整をし、確実に実施した。点検結果は報告書にまとめ、誰でも見られるようデータ化、ファイリングをした。 〔設備点検マニュアルの整備による確実な作業の実施〕 ・各種点検作業の手順書やチェックリストを作成し、それに基づき点検を実施した。東京2020大会においては、電源切り離し工事、電力工事などイレギュラーな作業が発生したが、事前にマニュアルを作成し、それに基づき作業を行うことで確実に実施した。 〔常駐スタッフによる迅速な修繕対応〕 ・機器メーカーにレクチャーを受け、次亜供給ポンプの消耗品交換や不具合時、性能が落ちた際に、常駐スタッフで迅速に対応出来るよう作業の自社化を進めた。 	
		水上競技施設の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> 〔衛生的な環境とハイレベルな競技レギュレーションへの対応〕 ・東京2020大会に備え、専門企業とフールの除藻薬をテストし、それに基づき投入、管理を行うことで大会時には親水基準管理と比較し苔を大幅に抑制し、関係者に綺麗な施設として好評を得た。 ・東京2020大会において、ミリ単位の水位調整や揚水ポンプ不具合時を想定した対応など、ICFからの要求に対応するとともに、組織委員会を通して海外選手へ利用上の注意事項などを周知することで、支障なく競技に利用いただいた。 〔不具合時への備えによる休場の抑制〕 ・ボートコンペにおいて異常が発生した際に、メーカーに確認をしながら機器交換を自社で行った。日常からメーカーとの連携を密にすることで、機器への理解を深めるとともに、海外製品となることから納品に時間のかかる予備品の補充を行い、不具合発生時にも迅速に対応できるように備えた。 〔より利用しやすい環境の整備〕 ・フィニッシュプールオイルフェンスのたわみが大きく、利用エリアへ干渉していたことから、施工業者への確認を元にフェンス全長を縮め、最大振幅幅を約10mから約2mまで減少させた。 ・オイルフェンス陸揚、ポンプ調整等、換水期における作業項目や手順をより明確化することで、換水期の作業を効率的に進めた。 	
		施設の提供	<ul style="list-style-type: none"> 〔予定変更に対する適切な対応〕 ・コロナウイルスにより、東京2020大会関連のスケジュールが多々変更になったが、組織委員会内の定例打ち合わせにも積極的に参加するなど、都、組織委員会、競技団体など関係各所と競技、調整をすることで、各所のニーズを反映しながら施設条例に則り、施設提供を行った。 ・東京2020大会公式練習時に雷があった際に、施設管理者として組織委員会に進言、協議し、一時練習を見合わせていただくなど、安全に施設を提供した。 〔大型大会・イベントの誘致〕 ・受付スタッフはすべて英語対応が可能なスタッフを配置し、東京2020大会においては、海外選手が利用する全ての期間において、日本語と英語による場内アナウンスを実施した。今後も世界規模の大型大会を誘致できるように体制を維持していく。 ・東京2020大会後のNHK杯全日本カヌー・スラローム競技大会開催にあたっては、東京2020大会撤去工事との調整やコロナ対策など日本カヌー連盟と綿密に打合せ実施に至った。 	
	安全性の確保	施設・設備の保守点検	<ul style="list-style-type: none"> 〔使用、不使用に関わらない日常点検の徹底〕 ・日常点検を徹底することで、軽微な不具合をいち早く発見するとともに、常駐スタッフによる簡易修繕を推進することで、施設への理解も深めた。ボートコンペにおいては毎日の使用はないが、日々点検したことで、異音を発見し、未然に重大な故障を防ぎ迅速に対応した。 ・年2回、コース周辺に発生しているクラックの状態を確認するとともにデータ化し、大きく進行しているものは業者修繕を実施し、軽微なものは自社修繕を実施した。 	
		防災への配慮・緊急時対策	<ul style="list-style-type: none"> 〔防災・防犯への積極的な備え〕 ・地震、台風発生時に現場確認と合わせ、チェックシートを用いることで確実な点検を行った。 ・突風を想定し、スピーカー設備を補強するための対策を講じた。そのほか、注意喚起のボードなどを必要に応じて作成し、英語表記も合わせて行った。 ・全従業員が普通救命講習を受講したほか、AEDについても実習を受け安全意識を高めた。 ・葛西臨海公園、近隣施設、地域との防災訓練に参加し、地域と一体に防犯意識の向上に努めた。 〔コロナウイルス対策〕 ・管理棟入口へ検温モニタを設置し、入場者自身で速やかにその時の検温ができるようにした。 	
	事業効果	事業の取り組み	自主事業の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 〔東京2020大会開催に向けた安心安全なトレーニング環境の提供〕 ・フレグムトレーニングについて、コロナウイルスの影響で日程・実施方法の大幅な変更が生じたが、感染症対策や料金設定変更などの調整を綿密に組織委員会・都と行い、受け入れを実施した。 ・JAPANTレーンについてコロナウイルスの影響が生じたため、日本カヌー連盟の要望である日程変更及び実施回数増に応じ、感染症対策や大会準備作業との利用調整を行った上で実施した。
			利用者ニーズの把握	<ul style="list-style-type: none"> 〔開業前アンケート及び事業者へのヒアリング〕 ・カヌー経験者を対象とした、個人使用の要望アンケートを実施し(オンライン)、個人使用の主な利用者層となるカヌー経験者を中心に343回答を得た。このアンケートからは曜日、時間帯、季節による繁閑の有無、また利用を希望される艇の種類等のデータを蓄積することができた。 ・競技団体、旅行会社、備品メーカー等に市況や利用者ニーズの聞き取りを行った。
			利用促進への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 〔施設ウェブサイトのリニューアル、PRや広報の拡大〕 ・活気のある施設を印象付けるため写真や掲載情報を増やし、施設ウェブサイトをリニューアルした。令和4年度6月に本格リニューアルをするため制作会社と準備を進めた。 ・施設利用者を増やすため、オンサイトで周辺連携の施策を進めるとともに、オフサイトでデジタルマーケティング実施のための下準備を行うほか、施設が提供するサービスのブランディングを行った。
			その他	<ul style="list-style-type: none"> 〔隣接する葛西臨海公園をはじめとする、近隣施設との取り組み強化〕 ・葛西臨海公園と定期的に情報交換の場を設け、相互事業への協力体制を強化した。 ・葛西臨海公園の花壇の写真撮影に従業員がカヌー選手として参加したほか、水仙まつりにブース参加を計画した(コロナで中止)。次年度は共催事業を実施する方向で調整した。 ・公園内事業者や葛西臨海公園駅高架下商業施設、鉄道会社などと、連携チケットや相互割引、広報協力などを計画し、エリア一帯で盛り上がる仕組みを作るための準備を進めた。

事業報告概要書

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名
大井心頭中央海浜公園ホッケー競技場	アメニス海上南部地区グループ

2 収支の状況（単位：円）	
項目	金額
収入 計	75,674,239
指定管理料	75,096,739
利用料金	577,500
その他	0
支出 計	66,848,609
収支差	8,825,630

3 管理運営の概要			
管理状況	適切な管理の履行	施設・設備の保守点検	2020大会期間中は、競技開始時間1時間前から競技終了1時間後まで待機し、午前・午後・夜間と、1日3回の設備関係の巡回を行った。異常がないことを確認すると同時に、日中にメタンガス上限値の警報がならないよう深夜帯に予防措置を行った。東京都や組織委員会と連携を図り、通行人の少ない時間帯でのハチの巣の除去やトイレの警報等の再発防止（英語表記）などを行った。
		優先受付の実施	大会後の施設利用に係る優先受付は、多目的利用を受け入れる初めてのものとなった。そこで優先受付案内のほか、競技場における利用制限事項や2020大会後の後利用工事後のイメージを伝える説明会を開催した。また、フィールドの仕様が従前と変わっていることから、ホッケー以外の競技団体様向けに見学会も開催している。
		施設の利用調整	優先受付分に関し、各競技団体の代表者の出席する調整会議を開催した。希望日程が重複している場合には、優先順位の説明を行うとともに、競技団体側にときに譲歩を促しつつ、特定の競技に偏らないよう配慮して、一定の満足を得られるようにした。会議で初対面となる関係者も多かったため、各競技の主な大会の年間スケジュール、トップシーズンなどを確認し合ったほか、会場確保の苦労や将来的なビジョンを語り合うなど、利用者（競技）間で理解を深める機会を提供することもできた。
		大型大会・イベントの誘致	ホッケーの主だった大会のほか、ラクロスの大会も多く申し込みを受け付けた。計画では23大会の誘致を想定していたが、それを上回る34大会の誘致ができた。その他競技では、タッチラグビーの講習会を自主事業として開催を予定している。
	適切な財務運営・財産管理	経理処理のチェック体制・帳簿、関係書類の整備、保存	ホッケー場の担当者と本社担当部門、経理部門とで情報共有し、チェックを行っている。領収書や委託先からの請求書は電子帳簿システムを利用し、紙の削減や業務の効率化を図った。
事業効果	利用状況	団体利用状況	組織委員会の2020大会準備・復旧工事による予約、東京都の後利用工事による休館等で、正規に一般の貸出は行っていないが、組織委員会による優先予約を稼働と捉え、100%の稼働率としている。2020大会前には、日本代表の練習で14日間の施設稼働を行った。一方、予定していた海外チームの公式練習会は、コロナ禍で入国規制等があったために中止となった。
	事業の取組み	サービス向上に向けた取組	大会前の施設稼働時間が短くなったが、代表チームや組織委員会の関係者、バス事業者とも適時適切に情報共有を図ったうえで、選手の入退場等が円滑に進むよう施設管理者として協力・支援を行い、大会の安心安全な開催に寄与することができた。
		大規模工事への対応	工事関係者と定期的に打合せを実施し、工事工程による動線等の変更に対して、公園利用者の目線を意識し分かりやすく周知するように努めた。また、後利用工事の際に支障となる屋外備品の撤去・退避を行ったり、工事直前に依頼された植栽管理（草刈り・つる取り等）に対応した。そのほか、工事業者の利便性を図りつつ、施設の維持管理に支障が生じないように日々調整を行った。

事業報告概要書

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名
東京アクアティクスセンター	事業団・オーエンス・セントラルスポーツ・都水協グループ

2 収支の状況（単位：円）	
項目	金額
収入 計	538,204,698
指定管理料	521,947,272
利用料金	16,257,300
その他	126
支出 計	527,871,088
収支差	10,333,610

3 管理運営の概要			
管理状況	適切な管理の履行	施設・設備の保守点検	<p>○日常点検や定期点検等を実施し、日誌等で記録を残すことにより機器の些細な変化を速やかに把握するなど、監視体制を整え、故障や事故の未然防止に努めている。不具合等が生じた場合は、直ちに東京都へ報告し、連携して迅速に対応している。</p> <p>○東京2020大会や東京都による施設改修工事を踏まえ、各種点検等の年間業務実施計画を策定し、計画的かつ状況に応じた柔軟な対応を行った。</p> <p>これにより、東京2020大会前に機器等の正常稼働を確認し、万全な状態で大会を迎えた。大会後は、令和4年2月からの東京都による施設改修工事に向け、長期休館に伴う機器等の停止措置を適切に実施した。</p>
		プール施設の管理	<p>○プールの水質については、水温、遊離残留塩素濃度、薬品残量を、中央監視システム及び実測のクロスチェックにより、水質保持の徹底を図っている。</p> <p>○ろ過装置等の水質管理機器は1日2回の点検を行い、正常運転を維持し、プール水の浄化、前述の水質保持の徹底により、プール底が明瞭に見える透明度及び衛生的なプール環境の整備に努めた。東京2020大会では、選手などからプールの透明度についてお褒めの言葉をいただいている。</p>
		施設の警備	<p>○警備業務にあたっては昼夜4名以上の警備員が常駐し、入退場管理等の定位置警備、巡回、セキュリティカメラによる監視を組み合わせた警備体制を整えており、効果的かつ効率的な警備業務を行っている。東京2020大会時は、大会日程等に合わせ昼夜の人数を調整し、万全な体制のもと警備を実施した。</p> <p>○東京2020大会前には、警視庁サイバー攻撃対策センターによる障害発生時を想定した机上演習に参加し、障害の起因となる不審者・不審物の対応など物理的な面での対策について助言をいただき、体制の強化に繋ぐことができた。</p>
		施設の提供	<p>○東京2020大会組織委員会のオーバーレイ工事や東京都による施設改修工事について、指定管理業務と両立し工事が円滑に実施されるよう、定期的な連絡会による情報共有を図るなど、全面的に協力した。</p> <p>○日本選手権水泳競技大会、テストイベントとして飛込ワールドカップ等を開催した。開催に当たっては、開館時間の繰り上げ、機械設備の制御運転、水温及び室温の最適化など、大会主催者の求めに応える適切な対応を図った。</p> <p>○東京2020大会では、施設の事前の点検及び確認に努め、万全な状態とするとともに、大会前準備における組織委員会からの要望等に対して柔軟に対応し、全面的な協力を図った。大会本番についても、万全な体制のもと臨み、大会中の求めにも都と連携して適切に対応し、大会成功に貢献した。</p>
	安全性の確保	防災への配慮・緊急時対策	<p>○安心、安全な施設環境整備のため、消防設備点検及び自衛消防訓練を実施した。消防設備点検では、東京2020大会の仮設部も併せて点検し、館内全体の防災及び緊急時対策の徹底を図った。</p> <p>自衛消防訓練では、東京2020大会前に大会組織委員会と合同で実施し、指定管理者が消火栓の取扱いや避難誘導等のデモンストレーションを行い、大会ボランティア等に対して緊急時対応の育成を図った。</p> <p>○令和4年2月からの改修工事期間中は、工事エリアと指定管理エリアが混在するイレギュラーな状況であるため、防火管理の責任分界点や緊急時の連絡体制等について、東京都工事事業者と協議を重ね、施設の安全性が十分に確保できる体制整備に努めた。</p>
		適切な財産管理運営	<p>○物品の管理については、東京都物品と指定管理者調達物品とをシール貼付により明確に区別しているほか、「物品管理者別物品一覧表」等を用いて、数量や動作確認等の自己点検を実施するなど、物品管理を適切に行っている。</p> <p>○東京2020大会や改修工事対応のため、保管環境が整った外部倉庫へ物品を搬出した。精密機器となる競技用計時機器は、定期保守点検を実施し、正常動作を確認している。</p> <p>その他の備品等についても、月ごとに保管状況を確認し、常に現状把握に努めている。</p> <p>○改修工事に伴う長期休館に備え、工事による粉塵等の影響を鑑み、プールサイドタイル、観客席エリア、ダイビングタワー床面にビニール養生を施し、施設設備及び物品の保全に努めた。</p>
事業効果	その他	<p>○「都立スポーツ施設等の再開館に向けた感染拡大防止ガイドライン」に基づき、当館利用時の感染拡大防止チェックリスト等をまとめ、遵守事項の周知と徹底、入館時の検温と体調確認などを適切に実施した。特に、大会での利用の際には、主催者が行う感染対策を事前に確認し、ガイドラインに則した感染拡大防止の徹底に努めた。</p> <p>○職員についても日々の検温、体調確認、マスク着用及び手指消毒を徹底するとともに、執務環境の整備、オンラインによる会議等に努めるなど、感染防止に取り組んでいる。</p>	